

「君の夢を必ず守ってみせる。」日曜の午前、ヒーロー物の番組が始まる時間だ。

誰もが一度は憧れたのではないだろうか。怪人や悪者を颯爽と倒し、人々に夢や希望を与える日曜午前のテレビの中のヒーロー達に。彼らはいつだって輝いている。彼らの存在はあくまでフィクション、そう考えている人は多いだろう。しかし私は誰もがこのヒーローであると考えている。そう考えた理由には税金と夢が大きく関わってくる。

税金と夢の関係性とは何だろうか。まず税金が何に使われているのか。国民の医療費、公共事業、教育費など例を挙げたらキリがないが国民の安定した生活を保障するために使われていることが分かる。税金はこのように使われながら人々の夢を支えているのではないだろうか。私がこう考えたのは私自身、税金に夢を支えられた経験があるからだ。

私の家は母子家庭だ。だからとってこの環境を悲観している訳では無いのだが、どうしても金銭的な問題は無視できなかった。その頃から私には夢があったのだが、その夢を叶えるためにはどうしても大学へ行き、資格を取ることが必要だった。しかし、大学にはもう行けないと明確に言われてしまい、これはさすがに参った。そんな時に私が知ったのは大学の無償化というものだった。正確には高等教育の就学支援制度と言って低所得世帯の子らを支援するもので消費税が財源らしい。ショックを受けている私を不憫に思った母が色々調べてくれていたようだ。その制度は私にとってまさに救いだっただ。ヒーローであった。大袈裟だと思うかもしれないが、本当にそう感じたのだから仕方がない。

税金は公共事業だとか福祉などに使われながら人々の夢を支えている、この作文内で私はそう述べたが、自分は中々に良い例ではないだろうか。私は今でも税金に夢を支えられて生きていると感じる事が多々ある。今、これを読んでくれている人にも税金に支えられている所があるのではないだろうか。でも私達はただなされるがままに救われている訳では無いはずだ。何せ税金は降って湧いてきた金では無い。税金によって救われているのは私達国民、そして税金を払っているのも正しく私達国民なのだ。税金を支払う行為は誰かの夢を救うことに必ず繋がる。私は今は税金を払う年齢ではないが、払える年齢になったら必ず払いたいと思う。自分が誰かのヒーローになれるなんてそんな素晴らしいことはないじゃないか。

今、税金を何となくでも払えているのなら、それは誇って良いことだ。君が幼い頃に憧れた日曜午前のヒーローになれたのだから。